

ビブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図 書 委 員 会
昭和59年 3月10日

No. 52

福島高専 図書館報

◇ 卷頭言

読書のすすめ — 名言に思う —

工業化学科教官 青 柳 克 弘

書籍は、青年のためには食物となり老人のためには娯楽となる。富める時は装飾となり艱難のときには慰藉となる。内にあって楽しみとなり外に携えて妨げとならぬ。殊に夜と旅行と田舎において好伴侶である。 — キケロー

書物とはどういうものか。適確に、そしてわかり易く表わしている言葉だと思う。テレビ等の普及により、本を読まない人が増えてきたと言われている。学生諸君も例外ではないと思う。自宅や寮の本棚をもう一度見てみよう。今まで、必要な栄養をとるために充分な食物を口にしていただろうか。私などは、まったく自信がない。長い夜の一瞬、テレビばかり見ていないでせめて一時間でも読書に時間を割くことをおすすめする。

それでは、どういふ本を読めば良いのか。ビブリア48号にも書いたが、どうせ読むなら、内容のある名作といわれる本を読むべきだと思う。だからといって、推理小説等を読むことに批判的ではなく、読み分けることが必要なのである。前者が、読者の血となり、肉となる食物だとすれば、後者は、潤いた喉を潤してくれる清涼飲料水のようなものだと考えている。

すべて良き書物を読むことは、過去の最もすぐれた人々と会話をかわすようなものである。— デカルト— 良き本を読んだ後には、必ず何かが残る。行間から、著者の話し声が聞こえてくるようである。その時の感動は、映画や演劇などのそれとはまた違うものがある。映画化された小説など数多くあるが、名作は、映画を見た後でも原作を読みたくなるし、その価値はある。しかし、映画をみたから、原作は読む必要がない、と思うような小説は、良き本とはいえないように思える。

ところで、せっかく良き本を読んでも、我々は、それを効率よく、血とし肉としているであろうか。ジョン・ロックは次のように言っている。

読書は単に知識の材料を供給するのみ、それを自家のものとなすは思索の力なり。— ジョン・ロック— あまり堅く考える必要はないと思う。例えば、伝記を読んだら、その人のどういふ生き方に共鳴したのか、自分の人生とどこが違うのか考えてみる。それで良いと思う。また、友人と読んだ本について語り合うのも一法であろう。時には、友人と夜通しでお互いの考えをぶつけ合う、そんなことも必要ではないか。

目 次

卷頭言	1	新着図書目録	7
読書つれづれ草	2	新着図書案内コーナー	10
視聴覚関係ニュース	3	今年度研究と学習の精華	11
私の読書(3・4年特集)	4	当館のあゆみ	13

釈尊の生涯

(中村元世界教養全集10、平凡社)

工業化学科教官 伊藤 宏

中村元は島根県松江市生れ(1912年)インド哲学者です。「釈尊の生涯」は「ゴータマ・ブッタ(釈尊伝)」(法蔵館発行・昭和33年)の第1編をわかりやすく収録したものです。

釈尊の生涯は日本で2回にわたり映画化されており、だれでもその生涯についてはある程度の理解を持っています。しかし、仏教の教えとなりますと仏典をひもどくとか、お坊さんの説法を聞くとかの出来ない者にとって、まことにわかりかねる存在となります。ところが私達はいろいろな場面で、仏教的雰囲気の中におかれ、わからないままにも老人の話に耳を傾け、宗教家の話も聞きます。

私は仏教徒ではありませんが、小学校前から幸、不幸のあるときにお寺にも出はります。日本はやはり仏教国的なのでしょう。文化のいたるところに仏教的なものが存在します。特に古いものほど影響が強く、ますます理解がむずかしくなります。

私はキリストの一生の記録として旧約聖書(または新約聖書)も一読すべきものと思っていますが、若いころ、日本にいてなぜバイブルの様なお釈迦さまの一生の記録がないのだろうと考えていました。一時、ある宗派の問答集(10巻以上もあり、1巻と読みきれぬものではありませんでした)をかいまみたことがありましたが、それは目くらが象をさすっている様なあせりを感じさせるものでした。私はともかく仏教なる全体像をとらえたかったのですが、むなしい努力でした。私は今なお、仏教については一言も話せる者ではありませんが、日本に生れて何かしら理解を深めたいとは考えています。この本は、そんな私にとって、なんとも読みやすく、また科学的資料をもとに構築された説得力のよさは、私が科学的分野の仕事にたずさわっているためでしょうか。記述された事がらがすなおに心にしみてくる感じで、そこには、浮世ばなれした宗教の世界はないし、素朴な宗教心と人間のつらさなどがわかれば十分に理解できるものがあります。

釈尊は29才で王位を捨て、子供、妻とわかれて出家します。私達もよく現状にあきたらず学校がいやにな

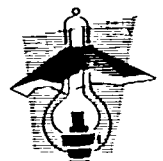
り、会社、家庭、日本がいやになり、どことなく家を出たくなります。しかし、釈尊は病、老、死の悲しみをのりこえた道……、世の中みだれのもと欲望のない道……を求めて出家するのです。それが人々の悲しみ、不幸を救う道であると考えたのです。著者は当時の社会的背景について、かなり冷静に加筆もしています。釈尊は現代で云えば、とてもりりしく、ハンサムの様です。文章の一節に、なぜインド全体の王様、転輪王とならないのかというくだりがあります。「あなたは眼清らかで、顔もみめよく、身体は大きく、端正で、光輝あり、みちの人の群れの中にあつて太陽のように輝きます。あなたは見るも美しい修行者で、その膚は黄金のようです。かくも容色がすぐれているのにどうしてみちの人たる必要がありましよう。」(古い經典「スッタパータ」詩句)

釈尊はいろいろな師を求めてあるきます。

無色界(物質のない世界)は空無辺処、識無辺処、無所有処、非想非非想処の4つの領域よりなり、これら境地に入って苦行すること7年、35~36才で「十二因縁の理」を悟って山をおります。これらの境地、悟りは当時すでにインドで発展していた思想の様ですが、これらを修め、問いつめて新しい世界を切り開いたのです。その思想の内容が最も重要なこととは思いますが、ぜひ一読し、他の本にも目をとおされることを望みます。

山をおりた釈尊は人々に説法を始めます。多くの人々が帰依し、多彩な教化活動をとおしてエピソードがうまれます。このあたりはバイブルを読んでいるのと同じ様な記述があります。

私は仏教についても、キリスト教についても、あまり知識をもたない者です。しかし、世界中の多くの人々が、それを生活の支えとして、律しているのです。常、日ごろ、私は少なくともその道がどの様なものかを理解したいと考えております。本道はともむずかしく現代物理学の相対性理論や素粒子理論などをひもどく様な心ぼそい心境となりますが、ともかくも読みとおし、それなりに考えることで新しい境地も得られます。特に卒業に近い4~5年生に一読をおすすめするしだいです。



「友をえらばば」

上木工学科教員 土居 威 男

与謝野鉄幹の歌に

「妻をめとらば 才たけて
見目うるわしく 情けあり
友をえらばば 書を読み
六分の俣気 四分の熱」

というのがある。いまはどうか知らないが私の学生時代コンパの席で必ずでた歌である。

前半は妻にする女性の理想像を歌っている。サラリーマンものの軽妙な描写で知られる青木雨彦氏に云わせると、こんな女性が居たら女房なんかにならないだろうということである。この件についてはビブリアの随想にそぐわないので、これ以上深く追求しないことにする。

さて、問題は後半である。そこでは友人たるものの条件みたいなものがあげられている。鉄幹は第1に、読書家であること、第2に義理人情をわきまえた男気のあること、第3に情熱を持っていることをあげているわけである。本を読むということも友人の第1の条件にしているところが何とも憎くいところである。

どうして本を読む人を友人とするのか。兼好法師は徒然草のなかで、あらまほしき友として「ものをくれる友」をあげていたと記憶する。青白い建前論の友情論はさておき、友人関係も所詮 give and take の関係である。兼好法師のいう「もの」は何も有形の物質だけではないと解釈することができる。物質やエネルギーに劣らぬものに「情報」がある。書を読む友人は有用な情報を提供してくれるのである。

単なる「情報」の取得ならTVを中心とする見たり聞いたりする方が早いし楽である。井戸端会談的なところではニュース的なあるいはすぐ流されるような情報でも良いだろう。気楽な話題で共通のおしゃべりを楽しむためにそういった情報の収集も必要であろう。

小学校や中学校ではTVを見ていないと仲間はずれにされるそうである。彼等にとっては「友をえらばばTVをみて」ということなのである。

鉄幹の時代にはTVも雑誌「フォーカス」も存在しなかった。もしあったとしてもやはり鉄幹は「友をえらばば書を読み」と歌ったはずである。見たり聞いたりすることと、「読む」ということは根本的に違いがある。「読む」という行為は「考える」という行為を必ず伴っていなければならない。

本来「書を読む」ということは、人生の途上で出会ったことを疑い、それを解くために書物を探し、読み考えという一連の行為を指すものである。我々技術者が仕事上の問題を解決するために専門書をひもとく

のも同じである。「考える」という行為があってこそ書物から得た知識は、書を読む人の問題解決の強力な武器となる。

尊敬する、あるいはいろいろ教えられる友人は、やはりよく本を読んではいないだろうか。同じ本を読んでも人それぞれ受けとり方は違う筈である。その受けとり方、考え方の違いを話し合うのがまた刺戟となり楽しみなものなのである。英語に *Intelligentia* という言葉がある。教養人とでも訳すのであろうか。誰だか忘れたがインテリとは同一の話題で2時間は話せる人という定義をされていた。こういう離れ業はやはり日頃から書に親しみ、考えていなければならないのではない。

「読書しない人間を信じない」といった思想家がいるらしい。書を読むから友人として信用できるというのが鉄幹の歌ではなかろうか。

良き友人を得るために、また良き友人となれるように、多に書を読もうではありませんか。

視聴覚関係ニュース

☆ 視聴覚機器担当者紹介

前号で紹介したように本校の視聴覚機器も一段と充実してきています。これらの機器を利用する授業を一層円滑に進めるため、授業、教材の準備、あるいは機器の操作を担当する人が各教科に居ます。昭和58年度は次の方々でした。

一般教科	西村 栄
機械工学科	渡辺 興仁
電気工学科	猪狩 英男
工業科学科	芳賀 俊彦
土木工学科	江尻 勝紀

☆ 新着借出用ビデオテープ一覧 (増加分)

- | | |
|--|--------------------|
| 1. Living in the U.K.: London; the city and the people | 15分 |
| 2. ビデオソフト制作入門講座 | 25分 |
| 3. 「市民大学」技術文明と人間 | 7 情報革命のペースマシン 各45分 |
| | 8 純粋科学と技術の共鳴 |
| | 10 生命の分子論 |
| | 11 生物学的な文明観 |
| 4. (1) 市民大学「技術文明と人間」 | 45分 |
| (2) あたたかい音を求めて | 20分 |
| 5. リヒテンシュ・タイン「華麗なる秘室」NHK総合TV | 60分 |
| 6. 高校数学1. 平面上の点の座標 | |
| 7. 高校数学1. 直線の方程式 (2) | 30分 |
| 8. 高校数学 (1)・2直線の平行・図形の表示・円の方程式 | 各30分 |
| 9. シェクスピア劇場「十二夜」 | 120分 |
| 10. シルクロード 第2部 はるかなる大宛 天馬を求めて | 50分 |
| 11. (1) 魔法の光レーザー (1) これがレーザーだ | 30分 |
| (2) シルクロード 第2部 大尊皇をゆく | 50分 |
| 12. 魔法の光レーザー (2) 光でかわすコミュニケーション | 30分 |
| (3) 光が救う生命 | 30分 |
| 13. 魔法の光レーザー (4) 光がひろく精密技術 | 30分 |
| (5) 21世紀へ向け | 30分 |
| 14. NHK教養セミナー 現代の科学 | 45分 |
| 15. 新機新時代 水が語る伝説 | 45分 |
| (3) 極寒の生物資源 | 45分 |
| 16. これが最先端だ | 60分 |
| 17. 禁止軌道をめざして一放逐衛星技術のすべ | 30分 |

※なお利用頻度の少ないものに、別のプログラムを録画するため
消上することがあります。

私の読書

3、4年特集

「ザ・ライト・スタッフ」

4E 添田 弘毅

「ザ・ライト・スタッフ」は、日本語にすれば、「正しい資質」である。この言葉の意味をはっきり述べるのは難しい。本から引用すれば「ジェット機を駆って疾風のごとく空に駆けのぼり、死の瀬戸際まで挑み、機が制御できなくなるぎりぎりのところで、闘魂と反射神経と経験と冷静さを総動員して機を立て直し帰還する」ことが出来る資質である。それを持った男たちのことが本書の内容である。

「正しい資質」の頂点に立ちとうとする、ジェットパイロットから、アメリカ最初の七人の宇宙飛行士たちまでの姿が、数々のエピソードによって語られる。特に、テストパイロットたちのエピソードはすごい。彼らは、それが自分にあることを証明し、その頂点に立ちとうするため限界に挑戦してゆく。そして多くのパイロットは、墜落し、焼け焦げて識別不能となる。その中で、世界で最初に音速をこえた男がその頂点に立ち、やがて、その頂点は宇宙飛行士たちに移ってゆく。これらのことが、実に細かく書かれている。作者は、まるでその場に立ち合っているかのように、それらのエピソードを書き、またその時の人々の心の中も書く。普通のノンフィクションとは、だいふ趣がちがう。ノンフィクションでありながら、物語のようでもあり、それでいて嘘ではない。自分の推測によって書かれている部分もない。あとがきによると、これがニュー・ジャーナリズムであると言う。リアリズムの手法を駆使して、徹底した取材をもとに細部を活写し、会話を復元し、場面を積み重ねて全体像を作る。このニュー・ジャーナリズムによって述べられる人々は、人間くさくておもしろい。この本の主人公たちとも言える七人の宇宙飛行士などは、赤裸々に書かれている。ある宇宙飛行士は、打ち上げの直前に、宇宙服の中に放尿してしまう。またある者は、ヘマをして、カプセルを海に沈めてしまう。1人1人について、丹念に調べ上げたのだろうが、それを詳細に描く筆者の力量には驚かされる。そしていつの間にか「ザ・ライト・スタッフ」の真の意味をつかまされているのである。私は、「ザ・ライト・スタッフ」を持つ人々にあこがれるが、自分でそれに挑戦する勇気はない。しかし、その言葉を知ったことによって、何かを得たような気がする。

「ぼくは十二才」を読んで

3C 櫻村 純子

ひとり
ひとり
ただくずされるのを
まつだけ

—これは、「ぼくは12歳」の表紙に書いてある詩です。中学一年の時に作ったものらしいのですが、私には12歳の少年が書いたものにはどうしても思えませんでした。12歳と言えばまだほんの子供ではないか?! 私はそう思いました。

しかし、真史君が作った詩を読んでいく内に、彼は、いっばしの青年だったノと思えてきました。次に載せる詩は、そう思うきっかけとなったものです。

せい春のたび立ち
ほらせい春のたび立ちノ
まっかな太陽
のぼる太陽
でっかい太陽
ほらせい春のたび立ちノ
でっかいあお空
高いあお空
まっさおな空
ほらせい春のたび立ちノ
かなしい気がする
うれしい気がする
不安な気がする
ほらせい春のたび立ちノ

この詩から判断するに、彼はすでに、いろいろな考え方ができていたと思います。青春というものに対して、かなしい気がするノ/うれしい気がするノ/不安な気がすると言っているのが、何よりも彼を青年に見せています。最近になってようやく友達同志で、「見方を変えれば、同じ物でも違った物に見えてくる」などと語り合ったのですが、彼はそこにたどり着くのが人一倍早かった。しかし他の人はごく普通の中学一年生と思っていた。—そこに、小さな溝ができ、やがて“死”という波に飲まれてしまったのではないかと思います。

正直言って、私もよく死にたいという気持ちになります。何のために生き続けるのか、分からなくなり、今与えられているものから逃げ出したい!!と思うから

です。でも、できない。現実なんてそうそう変えられるものではないし、それ以上に、彼のような勇気を私は持っていません。

でもいったいなせ、彼は全てを捨て、自分自身をまで、終わらせねばならなかったのでしょうか。

確かに、彼には国境を越えた問題はあったろうが、しかし残された両親を思っていたことができなかつたのか——と私は責めたい気持ちでいっぱいです。しかし死んだ者はもう二度と還ってはこない。これは両親が一番知っていることでしょう。それゆえに、私達に訴えたいのでしょう。

「むすこのようにはなるな!!。」

と。

私は彼の両親を、立派だと思えます。一人むすこに死なれ、悲しみを背負いながら生き続ける二人を尊敬します。ただこの悲しみは生涯むくわれ残りのが残念です。でも、彼の両親はむすこのことは失敗してしまつたけれど、他人のむすめやむすこを何人も助けていると思えます。それだけに、彼——岡真史君の死は無駄ではないのかもしれない。

しかし私は、彼の死を肯定することができないと言つた彼のお母さんに共鳴します。私は、死にたいと思うことがよくあると言いました。でも、現に生きています。人間なんて意外に強いものです。耐えられないと思つても生きています。真史君だって、生きたいと思つたあまりに、死んでいったのかもしれない。彼のこの詩を読んだ時、そう思いました。

ぼくはしなない

ぼくは

しぬかもしれない

いやしなないんだ

ぼくだけは

ぜったいにしなない

なぜならば

ぼくは

じぶんじしんだから

彼は、誰よりも自分のことを知っていたんだと思えます。そうでなければ、自殺などできるはずがありません。彼の両親は、真史君のことをやさしいと言っています。そしてそのやさしさを天使にたとえています。私も彼もやさしいと思えます。でもそれ以上に、馬鹿だと思えます。両親のことをこんなに悲しませるなんて馬鹿としか言いようがありません。彼はきれいすぎたのです。それゆえに世の中の絵の具には染まれなかつたのでしょうか。でも生きていれば必ず、幸せが巡ってくると私は思います。

岡 真史二作

高 史明・岡 百合子編

「後生への最大遺物」を読んで

4 土 国 井 克 彦

この著者の考え、つまり「この美しい地球、この美しい国、この楽しい社会、このわれわれを育ててくれた山、河、これらに私が何も遺さずには死んでしまいたくない。お金・事業・思想・教育者になることを遺せる人は、これらを遺し、これらのいずれも遺せそうにない場合は、最も意義のある最大遺物として、勇ましい高尚なる生涯を遺そう。」という考えは、本当にすばらしいものだと思う。だが、果たして、こんなにうまく行くであろうか。世の中で生きるのは大変だと思うのである。大人の社会での仕事というのは、たやすいものではないし、その他、多くの困難に出くわせる。そんな中で、自分の思ったような生涯を送ることは、まず無理であろう。だから、自分でそれなりに満足できる生涯を送れる人、つまり、点数で表わそうとするならば、60点の生涯を送れる人は、幸せな部類に入る人だと思うし、りっぱな人だと私は思っている。しかし、また、満足のできる生涯を送るためには、自分の目標をしっかりと見つめ、80点、90点の生涯を目標にしなければならぬとも思っている。後悔して、60点の生涯すら送れないでしまいそうな気がするのである。

「狭き門」

3 E 永 山 和 郎

聖書の中のルカ伝第13章24節にこの本の題名がキリストの言葉としてはいつている。

「力を尽くして狭き門より入れ、滅びにいたる門は大きく、その路は広くこれより入る者多し、生命にいたる門は狭く、その路は細く、これを見出す者少し」主人公ジェロームはこの「見出す者」の一人になると決心した。

しかしこれだけではこの本「狭き門」は語れない。実際この本を最後まで読み終えた時点で私は、内容の理解はおそらく半分ぐらいに感じた。なぜなら本文中で、「徳の追求」や「霊的完成」とかいった宗教的な考え方は私には難しく、具体的に理解しにくいものであったから……。

とにかくそういう難しいところを少々省いて大体的内容を簡単に言えば、この物語の主人公ジェロームは2歳年上の従姉のアリサを恋するようになる。一方アリサもこの従弟を愛するようになるが、肉感的で奔放な母親に対する反発から彼女は、宗教的な考えを持ち始めていく。ところで、うぶなジェロームの眼にはそ

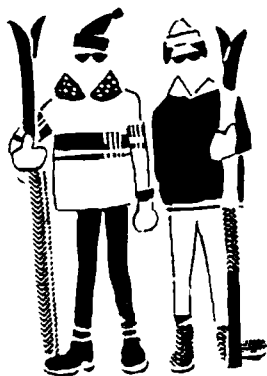
したアリサの見せる愛のしぐさや恋の裏には「禁欲義」の陰影をおびているだけに、度々意見がくいちまっていこうに通じなくなってしまう。そしていよいよアリサは、天上の喜びを求めてこの世を去る。と、かうような感じであるが、この二人、私には哀れとしか思えない。あまりにも互いに感情が繊細で純粋な心を持っているから余計に。

このアリサとジェロームは、本文中でよく文通をしているのだけれど、彼女の手紙は相変わらずジェロームを不安な気持ちにさせているので、私はそれからずっと、彼女は彼に愛想を尽かしたのだらうと思っていた。しかし、それは見事に裏切られた。彼女は彼を避けていながらも彼を本当に愛している方か愛せるなんて「絶望的な愛」ではないかと。

恋を犠牲にしてまで死を選んだアリサ、彼女は本当に根が暗い。かと言って自分はどうかんたと言われれば、多少暗い面もあるかもしれないがアリサにはかなわない。はっきり言って、こういう難しく、つき合にくい女性、私は好きになれない。どんなに優れているところがあるうとも、手を引くだろう。

それにしてもこの著者アンドレ・ジイドはよくもこれまでプラトニックラブを表現したものだ。経験がものを言っているとしか言いようがない本だった。

最近私は「読書」という読書をしていない。まずい傾向だ。直したい。実際私は読書は嫌いな方ではない（好きな方でもないかもしれない）。なぜなら、読書は、意味や感情をたどって行く時の軽い困難、その困難をだんだん上手に征服して行く時の自分でも気づかずにいるあの得意な気持といったものが、自己の魂の満足を付け足してくれるからである。



「異邦人」を読んで

3M 加藤久也

白。この小説でまず気付いた事がこれである。白といっても雪のような白でなく、灼熱の太陽の下、砂漠で陽炎が揺らめいているような強烈な乾いた白だ。これが小説の全背景に満ち溢れていて、不思議な雰囲気を作り出している。

不思議といえば、人物もそうである。勿論、その人物とは主人公であるが、彼の行動は、常識的に見ると不可思議なことが多々ある。棺の中の母親の顔を見ようとせず、亡骸を前に、涙を流さず煙草を吸ったり、通夜は眠りにこけたりする。全く薄情な男に思える。

では、彼のこれらの行動を支配しているのは、その人の持つ心と性格であろう。それについて考えてみれば、彼の行動はとて興味深い。彼には感情の起伏が殆んど見られない。別に言い換えれば、無関心とでも言うのだろうか。何しろ裁判所で、自分が被告人席に立っているのに、裁判官や検事そして弁護士に対して、外を通りかかった人が、というくらいの感情しか持っているのだろうか。普通の人かそうであるように、泣き喚いたり、反省の色を見せたり、開き直ったりせずに。結局そのためであろう。彼は死刑を宣告されたのだが。しかし上告もしなかった。この事も一般の人々が見れば自分の生命にも、無関心な男なのかと思うであろう。司祭にまでも彼は、神を信じないと言って面会を断わり続け、遂には司祭を怒鳴りつけ、追い出してしまっただとなれば、民衆は、彼のような死刑囚に会いに来てくれる司祭に何て事をと言うだろう。正常な人々から見れば、彼は全く人間失格ということになるのだろうか。ところで、これを結論に持ってくる前に、別の観点から見ると、全然別の事が見えてくる。前は一般的な人々の立場から見ただけで、彼自身の上から見ると、どうであろうか。母親の死に対して、彼は涙を流さなかった。が、泣いたふりをするよりはいいかもしれない。他にもいろいろあるが、いくら述べても、人によって彼への見方は様々だろうから、詳しくは書かないでおく。しかし、彼に注目したい点がある。彼の無関心の事であるが、現代人にも、そのような人がたくさんいるが、彼の無関心と見える物の裏には、現代人のあまり知らない、揺るぎの無い信念が見られるのである。これを通して、彼の行動を振り返れば、それらは皆それに基づいての事だったと理解できる。一般人々が、生活を滑らかにするためのお芝居などは、全く無いということである。勿論、彼の生き方だけでは、世の中を渡るのは困難だろう。しかし、彼のその信念こそ、我々に必要なのではないだろうか。人はそれによってのみ、自己の向上を計ることができるのであるから。

ひつじが丘にて

3E 志賀幸恵

ある人から三浦綾子の「ひつじが丘」をプレゼントされた。読み終えるのに幾らもかからなかったが、二度、三度と読み返した。というのは、一度読んだあとで、考えてしまったからである。テーマは「愛とは何ぞや？」答えられる人は一体どれくらいいるだろう。

この小説の主人公は広野奈緒美、牧師の一人娘である。彼女はいつの頃からか心にすきま風が吹くのを感じ、何となく反抗的な態度をとってみたりする。そんな彼女の前に、真面目な青年竹山と、その友人杉原が現れる。杉原の無邪気な瞳にひかれ、駆け落ち同様に家を出る奈緒美。しかし、同棲生活は不幸だった。本当の愛について、奈緒美は考え始める。

愛とは、好きな人といっしょにいたいと思う心、相手を大切に思うこと、生活を共にし、肉体関係を結ぶこと——。今まで私はその程度にしか思わなかった。けれど、それだけではない、という気がした。愛は永遠であるはずなのに、人間同士の愛は何ともろいことか、ほんの小さな行きちがいで、人間の愛は壊れてしまう。永遠の愛とはどんなものなのか？

その愛に気づいたとき、杉原は愛人と手を切ろうと決心した。そして愛人の差し出す別れの杯を受けるが、

それには睡眠薬が入っていた。雪の中、杉原は眠りにひきこまれてしまう。奈緒美とのしこりも消えないままで、彼が残したものは一枚の絵だった。それは十字架上のキリストの血をあびながら、その足もとで教しを乞う彼自身の姿だった。永遠の愛、それは神の愛である。信じない人が多いだろう。しかし、みんなが貧正月に拝んでいるものは、人間の作ったものではないか。そんなものに何の力があるのか。神とは、全知全能の存在のはず、だからただ一人で十分ではないか。全能の神は、汚れた人間をも清めることができるのだ。何の代償も求めず、一方的な愛によって、である。ただひたすら与える愛によって、である。清めの代償となったのは、金でも、宝でもない。キリストの命であった。彼は単なる歴史上の人物ではなく、神御自身だったのだ。「神の愛がわかる」ということは、知識としてわかることとは違う。ある日、ある時、心で理解するのである。

現在、洗礼を受ける準備をしている私には、死の直前の杉原の気持ちがよくわかる。神の素晴らしさがよくわかる。イエス＝キリストは死んだ。しかしよみがえったのだ。聖書の中にこんな言葉がある。

「人がその友のために命を捨てること、これよりも大きな愛はない」(マタイによる福音書) 人間のために肉体の命を捨てたイエスは、身をもってこの言葉を示したのだ。それがわかった時、私も杉原のように、十字架のもとにひざまずいたのである。

新着図書目録

☆印は図書館、他は各教官の研究室に所在するものを分類別受入願に記載

総記

- 航空写真大観 伸び行くふくしま 福島民報社☆
- 朝日新聞縮刷版 昭和58年9月～10月号 朝日新聞社☆
- 福島県年鑑 昭和58年版人名録 福島民友新聞社☆
- 福島民報縮刷版 昭和58年8月～10月号 福島民報社☆
- いわき市史10 近代資料1上 いわき市教育文化事業団☆
- 新訳漢文大系25 書経上 東洋文庫
- 425 三国史記2 平凡社☆
- 426 章若典3 同
- 427 甲子夜話三篇 同
- 428 南嶋探検2 同
- 人類の知的遺産
- 21 マイスターエックハルト 講談社☆
- 63 孫文 同☆
- フランク ケンティグ 同
- 万物寿命事典 同
- ハルバースタム
- メディアの権力I・II・III サイマル出版会

英文日本大百科事典1～9 講談社
出版年鑑1983 出版ニュース社
今井遼水編 いわきの文化財 いわきの文化財出版会☆

哲学

- 内村鑑三全集
- 35 日記三 岩波書店☆
- 36 書簡一 同☆
- 37 書簡二 同☆
- 38 書簡三 同☆
- 般若心経・金剛般若経 同☆
- ラーゲルレーヴ
- キリスト伝説集 同☆
- 遠藤周作
- 私にとって神とは 光文社☆
- 道教1 平河出版☆
- 道教2 同☆
- 講座 日本思想1 自然 東京大学出版会
- 矢島辛吉
- 空の哲学 日本放送出版協会☆
- 玉城康四郎編
- 世界宗教史叢書8 仏教史II 出川出版社

歴史

- 世界地理12 両極 海洋 朝倉書店
- 人名よみかた辞典 姓の部 紀伊国屋☆
- 名の部 同☆
- 角川日本地名大辞典
- 8 茨城県 角川書店☆
- 27 大阪府 同☆

日本歴史地名大系

- 40 高知県の地名 平凡社☆
- 41 檀古記 大韓民族史 新国民社
- 山本正三
- 世界の自然環境 大明堂

社会科学

- 日本民俗文化大系
- 2 太陽と月 小学館☆
- 3 稲と鉄 同☆
- 4 神と仏 同☆
- 5 山民と海人 同☆
- 民族宗教史叢書
- 2 八幡信仰 雄山閣☆
- 3 稲荷信仰 同☆
- 4 天神信仰 同☆
- 7 観音信仰 同☆
- 10 地蔵信仰 同☆
- 講座社会福祉
- 2 社会福祉の歴史 有斐閣☆
- 3 社会福祉の政策 同☆
- 4 社会福祉の実践 同☆
- 6 社会福祉の法と行政 同☆
- 9 関連領域と社会福祉 同☆
- 阿部照哉
- 新訳憲法
- 1 総論 同☆
- 2 基本的人権I 同☆
- 3 基本的人権II 同☆
- 4 統治機構 同☆
- 平塚らいてう著作集
- 1 費編 大月書店☆
- 2 母性の主張について 同☆
- 3 社会改造に対する婦人の使命 同☆

PC-8001 ビジネスプログラミング

ナツメ社

Max. Schnitker

The Teacher's Guide to the Brain and Learning Academic Therapy

Joanne Schaff

The Language Arts Idea Book
Goodyear Publishing

自然科学

朝永振一郎著作集

12 紀行と閑談 みすず書房

新編色彩科学ハンドブック
東京大学出版会

平田邦男

BASICによる物理 共立出版

石戸忠

実践的温室植物検索小図鑑 講談社

玉虫裕太

活量とは何か 共立出版

慶伊富長編

触媒化学 東京化学同人

レオ・デュ・エル

空から見た考古学 学生社

J・フリブソン

生態系とエネルギー 朝倉書店

谷崎長衛

気体の話 培風館

石川馨

化学者および化学技術者のための統計的
方法 東京化学同人

J. I. G. Cardogan

フリーラジカル化学の基礎 丸善

P. Suppan

光化学の基礎 同

稲本直樹

ハメット則 同

時田聡男

カラーケミストリ 同

柿沢寛他

有機機器分析演習 堂草房

柴野禮編

表面分析 講談社

小林龍一

新訂版相関・回帰分析法入門 日科技連

渡辺信輝他

表面および界面 共立出版

山本明夫

高速液体クロマトグラフ分析 産業図書

有機金属化学

堂草房

P. A. H wratt

エントロピーと化学平衡 丸善

R. J. A. Brahm

¹Hおよび¹³C NMR 概説 化学同人

R. W. オールド

導伝子操作の原理 培風館

S. K. フリードランター

エアロゾルの科学 産業図書

今堀和友

生体機能高分子 講談社

大沢又夫他

膜の機能 共立出版

E. プレシ

有機化合物スペクトルデータ集 講談社

松永義夫

物理化学

末廣唯史

現代の有機化学実験 技報堂出版

山村等

図説 化学 共立出版

M. マクタンジ

一般分析化学演習 I・II 同

山崎英

化学なんでも相談室 II 講談社

鈴木範行

改訂新版 新しい化学 同

新井康允

厨から見た男と女 同

斎藤繁児

写真—その実像を探る 同

日本化学会編

分子レベルからみた界面の電気化学
学会出版センター

北原文雄

界面電気現象 共立出版

渡辺信輝

表面および界面 共立出版

P. チョドウィック

連続体力学 ブレイン図書

関根達也

化学平衡の計算 理学院

浅田誠一

図解とフロチャートによる定量分析
図解とフロチャートによる定性分析 技報堂出版

吉弘弘郎

化学分析のしかた・考え方 オーム社

和田正信

物理の世界 培風館

恒藤敏彦

弾性体と液体 岩波書店

半谷高久他

水とつきあう 化学同人

太田晃

北極星太陽による方位角測定の実験 日本測量協会

中野圭一

マイコン天文学 恒星社厚生閣

前田垣

太陽惑星環境の物理学 共立出版

三輪和雄

人工臓器の時代 講談社

ジョン・デインティス

化学用語小辞典 同

科学技術活用大辞典 和英編 英和編
インタープレス

赤池弘次他

ダイナミックシステムの統計的解析と制御
サイエンス社

日野幹雄

スペクトル解析 朝倉書店

辻喬

科学の事典 岩波書店
電気電子のための固体振動論の基礎
オーム社

C C Wang

Introduction to Rational Elasticity
Nordhoff

Ann. M. Flowers

The Big Book of Language Through
Sounds The Interstate

Herbert Benson

三共出版

技報堂出版

共立出版

同

講談社

同

同

同

学会出版センター

共立出版

共立出版

ブレイン図書

理学院

技報堂出版

オーム社

培風館

岩波書店

化学同人

日本測量協会

恒星社厚生閣

共立出版

講談社

同

インタープレス

サイエンス社

朝倉書店

岩波書店

オーム社

Nordhoff

The Interstate

The Interstate

The Relaxation Response AVON

O. T. Marichev

Handbook of Integral Transforms of higher
Transcendental Functions Wiley

A. R. D. Mathias

Surveys in Set Theory
Cambridge University

J. D. Achenbach

Wave Propagation in Elastic Solids
North-Holland

工学

Z-80マイコンプログラミング実習

日利工業新聞社

須田健二

マイコン制御によるメカトロニクス入門
共立出版

村田裕

マイコンとセンサのインターフェイス技術
基礎編 日利工業新聞社

C・A・プレビア

境界要素法の基礎と応用 培風館

H・ツイグラ

連続体の熱力学入門 森北出版

C・A・プレビア

境界要素法入門 培風館

H・ホックシタット

特殊関数 培風館

マイコン小事典

講談社

佐久田昌昭

海洋建築入門 同

ブロック入門 ラジオ技術社

C・A・プレビア

境界要素法の実用 I 企画センター

齋生良治

マイコン用計測回路とそのインターフェイス
CQ出版社

岡村勉夫

標準デジタルバス (IEEE-488) とその
応用 同

水野忠則

マイコンローカルネットワーク 産報出版

塩田泰仁

実践メカトロニクスマイコン制御
産業図書

ファインケミカル事典 シーエムシー

林正他

数値計算法 新体系土木工学 I
技報堂出版

Arf Pfluger

骨組構造の静力学 同

安芸院一

川に想う 古今書院

木戸能史

BASIC VS FORTRAN II オーム社

成田裕一

パソコンによる電子回路演習
日利工業新聞社

奥村昌之

コンピュータエイデッドテクノロジー 共立出版

芦田誠二他

公害防止の管理と実務 日利工業新聞社

笛木和雄他

電子材料の化学 (応用化学シリーズ 3)
丸善

青田忠雄
環境保全の化学技術(応用化学シリーズ9)
丸善社

柳田博明
セラミックスの化学(応用化学シリーズ2)
同 社

飛田満彦
ファインケミカルズ(応用化学シリーズ8)
同 社

富永博夫他
有機プロセス化学(応用化学シリーズ7)
同 社

岡部泰二郎
無機プロセス化学(応用化学シリーズ6)
同 社

井上祥平
高分子材料の化学(応用化学シリーズ4)
同 社

光成啓明
応用BASIC(2)プロックによる図形処理
パワー社

触媒工學講座2
触媒物性論 地人書館
日本音響学会・昭和58年度秋季研究発表会
講演論文集I・II 日本音響学会
第923回講演会・材料構造の強度評価(新
方式) 日本機械学会

各務鎮三
ガラスの成長 中央公論美術出版社
生物学的水処理技術と装置 培風館社

F・G・シンズキー
蒸留塔の制御 マグロウヒル好学社社

日本化学会編
新時代の基幹有機化学工業
学会出版センター社

岡崎達也編
化学工學入門 三共出版社

三羽忠広
基礎合成樹脂の化学 技報堂出版社

大矢晴彦
工學部学生のための移動速度論
同 社

土木工學大系5
連続体の力学I 彰国社社

ブリアサヴァラン
美味料理(上)岩波クラシックス47 岩波書店社
美味料理(下)岩波クラシックス48 同 社

寺沢誠司
プロセス化学 エンジニアリングサイエンス・
講座17 共立出版社
PC-8001 MK II N80Disk-BASIC入門
ナツメ社
PC-Techknow 8000 vol.1 アスキー出版

D.M.Auslander
マイクロコンピュータの計測と制御への応用
オーム社

山口伊佐夫
流域管理計画の立て方 水利科学研究所
昭和58年電氣四学会連合大会論文要者著
索引 電子通信学会
第536回講習会初心者のための材料力学に
おけるマイコンの利用 日本機械学会

新藤義昭
PC8001 徹底解析 ナツメ社
入門金属材料と組織 大河出版

丸山清
めつき実務読本 日刊工業新聞社

道路構造令の解説と運用 日本道路協会
建設機械等損耗量定率・昭和56年度版
日本建設機械化協会
土と基礎のコンピュータプログラム 土質工学会
土質地震工學 同
土質工學ハンドブック 1982年版 同

戸川隼人
マイコンによる有限要素解析 培風館
続・マイコンによる有限要素解析 同

C
環境工學のための化学 倉北出版
都市の国際性 地人書房

チモシユンコ
構造力学上 ブレイン図書
最新建設防災ハンドブック 建設産業調査会

武藤義一
容量規制の知識 日本規格協会社
新体系土木工學3 有限要素法 技報堂出版社
新体系土木工學100 建設機械 同
コンクリート構造物の維持補修取壊し調査編
計画編 技報堂出版社
改訂建設省河川砂防技術基準案 山海堂社
解説河川管理施設等構造令 同 社
よみがえれ!日本の水 日本水きれいにする会社

川名英之
クロム公害事件 緑風出版社

矢川元基
流れと熱伝導の有限要素法入門 培風館

雨宮好文
図解メカトロニクス入門シリーズ制御用
マイコン入門 オーム社

柳澤章喜他
PC-9800 活用法 オーム社

光成啓明
図形入力装置デジタイザの使い方 啓学出版

大原茂之他
パソコングラフィックス入門 オーム社

北川一雄
制御用マイコンのプログラミング 同
大原茂之他
図解パソコンの使い方 同

村瀬康治
応用CP/M アスキー出版局

木戸龍史
BASIC VS FORTRAN77 オーム社

矢初晴一郎
パソコン28倍楽しみAPPLE II
学習研究社

塩島大
みどりの挑戦 鹿島出版会
現代測量学 別巻2 日本測量協会

斉藤博
教程基準点測量 山海道

田島松
図解測量用語辞典 同

オートレイ
天びん コロナ社

オートレイ
走査電子顕微鏡 同

風間暁
実践ポケットコンピュータ 講談社社
B.A.フィンレイソン
重みつき残差法と変分原理 培風館

大相久重雄
熱処理のおはなし 日本規格協会

手塚敬三
溶接のおはなし 同

永田宏二
接着のおはなし 同

辻西
精密洗浄技術 工學図書
NATMの設計と施工実例集3 日本トンネル技術協会

佐々木道雄
わかりやすいシールド技術入門 土木工學社

福岡正己編
新しい耐震設計入門 近代図書
容量規制の知識 日本規格協会
1983年テレビジョン学会全国大会講演予稿集
テレビジョン学会

松崎吉信
図解発明のヒント 講談社社

川名英之
クロム公害事件 緑風出版

高野秀夫
斜面と防災 築地書館
M200Mark Series Rasm ソード電算機システム

Jacques Heyman
Elements of Stress Analysis
Cambridge

W. F. Chen
Fracture in Concrete ASE

James J. Duderstadt
Principles of Engineering Wiley

Adrian Room
Dictionary of Trade Name Origins
R. K. P

Peters Pawlik
Elasticity Theory and Applications
Wiley

Lawrence E. Malvern
Introduction to the Mechanics of
a Continuous Medium Prentice Hall

R. M. Christensen
Mechanics of Composite Materials
Wiley

Harry West
Analysis of Structures Wiley

Werner Soedel
Vibrations of Shells and Plates
Dekker

A. C. Ugural
Advanced Strength and Applied
Elasticity Elsevier

A. C. Ugural
Stresses in Plates and Shells
Mcgraw Hill
Stahlbau Handbuch Stahlbau

島津康男
土工の道 日本放送出版協会
浄水処理ケーキ 博友社
下水汚泥 同
土壌の吸着現象 同

産 業

芸 術

猪飼道夫他	現代トレーニングの科学	大修館書店
猪飼道夫	学校体育と現代トレーニング	同
猪飼道夫	種目別現代トレーニング	同
土門拳全集I	古寺巡礼I 大和篇 上	小学館
関見正雄他	標注洛中洛外屏風	岩波書店
池田高次夫	私のピカソ	中央公論社
	日本画年鑑'84	マリア書房
現代日本画家素描集		
1 杉山寧	日本放送出版協会	
2 平山郁夫	同	
3 森田晴平	同	
4 堅山南風	同	
5 東山魁夷	同	
6 加山又造	同	
7 高山辰雄	同	
8 奥村土牛	同	
9 上村松原	同	
10 山口華樹	同	
古寺巡礼京都		
21 清涼寺	淡交社	
22 曼殊院	同	
23 禅林寺	同	
24 清水寺	同	
25 六波羅宮寺	同	
26 延暦寺	同	
27 鞍馬寺	同	
28 泉涌寺	同	

29 法界寺	淡交社
30 大覚寺	同
町田嘉彦編	
わらべうた 若波クラシックス52	岩波書店

語 学

故事 俗信ことわざ大辞典	小学館
渡辺千秋他	
FEN NEWSヒアリング訓練	語研

文 学

明治文学全集82	筑摩書房
明治漢詩文集	
ロマン、ロラン全集38	
書簡VI	みすず書房
山内義雄	
上田敏全訳詩集(若波クラシックス42)	岩波書店
原詩選上(若波クラシックス43)	同
原詩選中(若波クラシックス44)	同
原詩選下(若波クラシックス45)	同
イソップ寓話集(若波クラシックス46)	同
啄木歌集(若波クラシックス49)	同
日本の原爆文学	
1 原氏喜	ほるぷ出版
2 大田洋子	同
3 林京子	同
4 佐多稲子他	同
5 井上光晴	同
6 堀田善衛	同
7 いいだもも	同
8 小田実他	同

9 大江健三郎他	ほるぷ出版
10 美川きよ他	同
11 中山士朗他	同
12 堀田清美他	同
13 詩歌	同
14 手記・記録	同
15 評論・エッセイ	同
山本健吉	
詩の自覚の歴史	筑摩書房
桑原博史	
徒然草の鑑賞と批評	明治書院
大西善明	
朝日日記新注釈	同
重松信弘	
増訂源氏物語の構想と鑑賞	風間書房
源氏物語の人間研究	同
北山茂夫	
橋本人麻呂論	岩波書店
露伴隨筆 第1冊～第5冊	同
富士正晴	
御伽草子 古典を読む1	同
安東次男	
おくのほそ道 古典を読む2	同
廣末保	
心中天の網島 古典を読む3	同
中野孝次	
今昔物語集 古典を読む4	同
橋本徳壽	
アララギ文選編年考1	至芸出版
橋本徳壽	
作歌の基礎	同
森岡常夫	
源氏物語の考究	風間書房
日本大歳時記 座右版	講談社
王明秀歌選 若波クラシックス51	
	岩波書店

《新着図書案内コーナー》

『日本の原爆文学』 全15巻

ほるぷ出版

アメリカにおける「ザ・デイ・アフター」のTV放映をきっかけとして、いま世界各国で、その劇場用映画が上映されている。自らも被爆者の一人である劇画『はだしのゲン』の作者・中沢啓治は、「ザ・デイ・アフター」は核戦争の悲惨さを十分に伝えていないと語っているが、それにもかかわらず、このTV放映は、アメリカを始め世界各国の、被爆体験のない国々の人々に、核戦争の非人道性を訴える良い機会となった。

ところで、このたび本校図書館に備えられた『日本の原爆文学』全15巻は、日本の作家・詩人・評論家たちが、ヒロシマ・ナガサキの被爆体験を、地味ながら執拗に、自らの言葉で刻んできたモニュメント(記念碑)なのである。これらの作品群が集大成され、まとめて眼を通すことができるようになった意義は大きい。まだこの外にも、すぐれた文学作品や手記が発表されているが、ともかく、この文学全集に収められた作品を手がかりに、われわれは、更めてこれからの日本や世界の生き方を、考え直さなくてはならないだろう。

とくに、戦争を知らない世代の学生諸君にとっては、これは必読の文献と言っても良い。意識的なのか、無意識的なのか知らないが、とかく戦争の悲惨な体験が風化しがちな日本において、これらの作品は、親の世代から子供の世代への貴重な遺産なのである。悲惨な事実に眼を掩ってはならない。われわれは、その事実をしっかりと見すえたいうえで、更めて二度とあやまちを繰り返さないためには、ひとりひとりの人間が、何をすれば良いのかを、じっくり考えたいと思う。

(図書委員会 芋川記)

今年度 研究と学習の精華

I 教官研究 (紀要論文目次)

58. 12. 26発行

- ・電子同調AFC発振回路の電圧制御感度の一様化
(電気工学科) 山崎 数彦
- ・MOS INVERTER ICの試作-(1)
(電気工学科) 奈良和久・岩間一郎
- ・スチルベンおよびトラン誘導体の合成とそれらのけい光性について
(工業化学科) 小磯武文
- ・ヘキサアンミンクロム(III)およびヘキサアンミンコバルト(III)錯体の赤外吸収スペクトル
(工業化学科) 高橋辰男
- ・水-1-ブチルアルコール混合溶媒におけるNi(II)とイソキノリンとの錯形成反応 (工業化学科) 高橋辰男
- ・相間移動触媒を用いた3,4-ジニトロトランの合成
(工業化学科) 井上和人
- ・三ヶ島 葎子の「アララギ」入会について
(国語科) 中村好一
- ・多磁極プラズマ装置におけるイオン波の励起
(物理科) 鈴木三男・(小島英夫)・(山際啓一郎)
- ・John Donneの「教皇至上権」拒否について
(英語科) 西山公紀

II 卒業研究一覽 (校内発表は2月24日・25日)

(機械工学科)

題 目	学 生 名	指導教官	題 目	学 生 名	指導教官
メッキを利用した応力測定法に関する研究	石川 勉・塩百二・須藤昇 鈴木哲哉・野尻一則	佐藤 昭	黒鉛の疲労・裂伝播特性試験	高橋 孝夫・若松 節郎	淡 路
液体窒素の沸騰熱伝達	橋本 薫・松田 義	佐藤 昭	破壊靱性試験	大山 貴司・佐藤 直	
強制対流式平板型ソーラーコレクタの熱的性能	佐々木賢治・戸井田博 吉田和男・橋山和弘	佐藤 昭	ロボットアームの製作と制御	鈴木 健吾 高野光一・蛸田 勝久	石 垣
指圧機図の位相ずれに関する研究	古田 俊文	塚 田	パソコンによる機械製作図の三次元グラフィックス化について	佐久間 洋・高橋 哲也	-
圧縮工程におけるポリトロップ指数の変化過程	大井川一能 三浦善明・若松一男	-	低周波音の遮音量について	奥山 信 菊地和樹・栗林哲也	渡 辺
アルコール-ガソリン混合燃料を用いた機関の冷間始動特性	佐藤 武明・武田信二	-	亜鉛の上の塗膜の密着力	佐藤 拓・佐藤 浩治	音 野
うず巻きポンプの特性について	豊妻慶隆 豊島久則・馬上 兵次	中 山	塗膜の Cl^- イオンの透過	浅川 武弘・小林昭彦 吉田 淳也・渡辺賢治	-
水素気泡法による流れの可視化について	海上雅彦・藤司 切輝	-	光弾性による二次元応力解析	高田 復之	佐藤 憲
熱応力破壊試験装置の開発	村上幸作・若林伸次	淡 路			

(電気工学科)

題 目	学 生 名	指導教官	題 目	学 生 名	指導教官
MZ-1200によるローカルネットワーク	本城 龍長	春 日	センサとマイコンによる圧力測定	大野利明・渡辺俊明 橋本貞和	大野 昭
マイクロコンピュータによる音声分析、合成装置の設計・製作	根本 浩	-	超音波センサによる距離測定	松浦 登美雄	-
MZ-1200によるグラフィックボードの設計・製作	池田 勝治	-	MFBによる低域特性の改善とひずみの低減	庄司 順一 猪狩 裕光	渡辺 昭
システムの信頼性	外川 孝樹	-	PCM磁気録音用プロセッサの試作	金田 清文 小林 茂	-
マイコンによる電子回路解析	野口 良浩	-	MOSインバーターICの製作	加藤 和昭・田中 宏和 穴戸 博・橋本和人	奈 良
CVD装置の設計製作	石川 正樹 大野 健一	岩 間	準準電波による基準周波数発生装置の設計・製作	金田 昌也 東海林 忍	山崎 聡
プラズマソアクターの性能試験	安田 民雄 西 康文	-	PFMによる光通信システムについて	大原 浩一	-
誘導電動機の可変電圧、可変周波数(V.V.V.F)制御	井出 一正 小室 浩	-	PLLによる同期検波	渡辺 英明	-
三相トランジスタインバーターの設計・製作	太田 政行	岡 沼	PLLによるD.Cモーターの速度制御	岡田 広樹 鈴木 寛	村 田
スイッチングレギ、レーターの高速化	小針 昌剛	-	FFTによる信号解析	菊地 昇	-

題 目	学 生 名	指導教官	題 目	学 生 名	指導教官
PC 8001 によるバース計測ユニット	矢吹 浩則	村 田	高分子絶縁材料の耐トラッキング性	磯井友行・熊谷裕純 水山英祐・水山 栄	嶋 沢

(工業化学科)

題 目	学 生 名	指導教官	題 目	学 生 名	指導教官
アゾ色素のポーラログラフィー	横山 道雄	小 磯	PAR およびそのニッケル錯体のポーラログラフィー	姓田 通	高橋 誠
けい色増白剤に関する研究	高橋謙一・馬龍宏之 佐久間広光	"	金銀指示薬としての PAR の研究	菊内 健治	"
植物中より抗腐物質の抽出、単離	石川 久美 藤崎 和人	金 田	ニッケル錯とチーフニルピリジンとの錯形成反応	山越 勉	"
小麦中の銅-有機化合物の単離および構造解析	柴田 実	"	針状酸化亜鉛の表面物性と光導電性	赤川卓夫・吉田 剛 木村順子・渡辺 豊	大 隈
河川の水質汚濁と河川底質の特性	高木 仁 志田 裕二	伊 藤	フェニル置換ポリチアゾールの合成と性質	山田 賢平 山本 幸仁	井 上
大気浮遊物じん中のベンゾ[a]ピレンの微量分析	大内 和成	"	化学工学用プログラムの開発	船岡 謙之	大沢 勉
マンガンゾル製錬に関する研究	新妻 弥江	"	毒気槽内での流動現象の測定	青木 慎一 藤田 智満	"
水中中のニッケル、銅-有機化合物の単離および構造解析	青木 美敏 藤田 勝人	引 地	極性液相を用いたガラスキャピラリーカラムの特性	小形 英之 玉川 豊代	小林 剛
小麦中のカドミウム-有機化合物の単離および構造解析	江幡 茂雄	"	ペリフルオロアルキル基を有するピロールおよびその誘導体の合成	秋山 幸示	青 柳
小麦中のニッケル-有機化合物の単離および構造解析	目黒千麻子	"	経絡ヘミンを用いた再構成ミオグロビンの合成およびその性質	永山 紀行	"
イオン対形成反応におよぼす温度効果	小野 彰一	高橋 誠	親水性基修飾ヘミンを用いた再構成ミオグロビンの合成およびその性質	増子 健二	"

(土木工学科)

題 目	学 生 名	指導教官	題 目	学 生 名	指導教官
床組の経済的配置に関する研究	我妻 康弘	土 居	コミュニティ・プラントに関する検討	高藤 秀紀	橋 本
コミュニティ・プラントに関する研究	阿部 修司	橋 本	一連の応力型平板理論の各種境界条件ならびに荷重条件における精度特性	穴戸 勲	根 岸
東北横断自動車道(会津坂下~津川間)の路線計画	今井 賢一	高橋 誠	いわき地区産骨材を用いたコンクリートの海水に対する耐久性	清水 幸三	志 賀
いわき地区産骨材を用いたコンクリートの強度および耐久性	猪狩 允弘	志 賀	いわき地区における下水汚泥と水ひ粘土による軽骨材化	嶋原 茂	"
小川江筋事業とその今日的意義	植野 光教 大川原保美	高橋 誠	調トラス材料の断面決定法	柴 敏 勉	土 居
SEIKO 9500 と YHP 7580 A による測量成果の自動処理プログラムの製作	大和田 尚	高 成	平-新島間新幹線のルート選定(会津若松-新島間)	田中 寿明	高橋 誠
東北横断自動車道(いわき~郡山間)の路線計画	片寄 正英	高橋 誠	平・小名浜地区における液状化予測	高木 正文	佐藤 誠
高次の項を考慮した各種はり理論の位置づけとその精度特性	神谷 光昭	根 岸	層状性平板の静的解析の厳密解	高木 広通	根 岸
平・小名浜地区におけるサイス・ック・マイクロゾーミング	菅野 正太郎	佐藤 誠	いわき地区産骨材のアルカリ骨材反応性	林 紀夫 渡辺 透	志 賀
いわき地区における下水汚泥と水ひ粘土による軽骨材化	木田 隆典	橋 本	変断面三径間連続バリのたわみ略算法	広坂 忍司	土 居
軟弱地層の圧縮低下に関する研究	草野 滋	佐藤 誠	地盤の振動応答解析手法の比較検討	尾 清	佐藤 誠
福島第1原子力発電所における蒸気水の拡散	草野 光平 緑川 誠彦	菅 野	一連の応力型平板理論の直交異方性平板の解析における重力特性	本田 剛雄	根 岸
PC 鋼材(19.3mm 鋼より線)の付着特性と PC 床版においてのアンボンドケーブルの摩損係数	小泉 茂法	志 賀	平-新島間の新幹線ルート選定(平-会津若松間)	本村 隆一	高橋 誠
広巾員=主桁橋の経済性の検討	小林 俊信	土 居	河川底泥の粘着特性の研究	遊佐 浩之	橋 本
水平補鋼材とフランジ断面変化のある工断面プレートガーターの製作費を考慮した経済性の検討	木崎 盛人	"	鉄筋コンクリート型ダムの研究(その2)	湯田 博文	高橋 誠
第三紀泥岩の特性	佐藤 博行	佐藤 誠	プレテンション配材における PC 鋼材(φ5mm 鋼線、T12.5mm 鋼より線)の付着特性	渡邊 宏	志 賀
港灣都市再開発の方法論に関する二、三の考察	佐藤不二夫 高藤 幸一	高橋 誠			

当館のあゆみ

- | | |
|--|---|
| <p>58. 5.26 第一回図書委員会</p> <p style="padding-left: 20px;">1. 昭和58年度図書館活動について</p> <p style="padding-left: 20px;">2. ビブリア編集案</p> <p>58. 5.27 第一回学生図書委員会
図書委員長、副委員長選出</p> <p>58. 5.30 教官にアンケート依頼
「学生に薦める本」</p> <p>58. 6.30 第2回図書委員会</p> <p style="padding-left: 20px;">1. 図書購入費配分案について</p> <p style="padding-left: 20px;">2. 研究紀要原稿募集について</p> <p>58.7.5~12 教官帯出図書定期検閲</p> <p>58.7.7~12 夏休み特別貸出し</p> <p>58. 7.15 第3回図書委員会</p> <p style="padding-left: 20px;">1. 購入雑誌の改廃について</p> <p style="padding-left: 20px;">2. 理工系共通図書の選定について</p> | <p style="padding-left: 20px;">3. 選定図書のP.R.について</p> <p>58.7.18~25 一般図書の定期検閲</p> <p>58.10.11 研究紀要原稿審査</p> <p>58.10.19 第4回図書委員会</p> <p style="padding-left: 20px;">1. ビブリア51号の編集案</p> <p style="padding-left: 20px;">2. 読書状況追跡調査について</p> <p>58.11.24 第2回学生図書委員会
「読書に関するアンケート」</p> <p>58.12.12 冬休み特別貸出し</p> <p>58.12.26 研究紀要第19巻第1号を発刊</p> <p>59. 1.20 蔵書目録第6号を発刊</p> <p>59. 1.25 第5回図書委員会</p> <p style="padding-left: 20px;">1. JOISオンライン情報検索の開設について</p> <p style="padding-left: 20px;">2. 卒研用原稿用紙の書式について</p> <p style="padding-left: 20px;">3. ビブリア52号の編集案</p> |
|--|---|